

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201918
法人名	医療法人社団 真友会 藤井医院
事業所名	医療法人真友会 グループホーム ことひら
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市御船町411-3 (電話) 0956-37-0555

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年3月18日	評価確定日	平成20年7月7日

【情報提供票より】(平成20年2月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨コンクリート造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.4 歳	最低 58 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤井医院、森山クリニック、たかひら外科医院、須田歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昭和を思い出す町並みを抜けた、佐世保港を見下ろす小高い丘の上にそのホームは建っている。運営者である院長の「地域に貢献したい」「地域に根ざした医療・ホームを」という思いが、施設長初め全職員に浸透している。施設長は、職員の力を信じており、一層、仕事としてのプロ意識を持ち、さらに気づきが広がるように、今後、さらに仕事での基本姿勢(気づきや援助方法等)などについて、日々、職員に伝えていきたいと考えている。ご利用者の思いを知るための取り組みは素晴らしく、日々、ご利用者の言葉を傾聴する姿勢と合わせて、月に2回は、ご利用者の「今聞いて欲しい」ことを聴ける専任の職員体制を整えていくなど、常にご利用者主体の視点で支援体制を考えている。また、開設以来10人ほど看取りを行ってきたが、「寝たきりの状態であっても何か願いがあるのでは?」と今までの生活習慣などを考慮し、毎朝、パジャマの上着を大好きなブラウスに着替えていただく事で、ご本人の表情が少し明るくなられたこともあるなど、最期まで、その方が「一番その方らしく心地よく過ごすことができる方法」を考え続けているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価を踏まえ、①音の大きさ、②利用者一人ひとりの尊重、③服薬管理などについて、全職員が定例会で話しあったり、勉強会を行うことで改善に向けた取り組みを行ってきた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、施設長が、職員へ評価・項目内容について説明し、話し合った結果をまとめた。自己評価を行うことで、「自分達のホームが全ての面で地域に密着している」ということの再認識ができ、職員からは「初心に戻って頑張ろう」という声も聞かれている。次回の自己評価は、全職員で行っていききたいと考えている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 町内会長・民生委員・佐世保市職員・家族会会長・副会長・職員などが参加し、ホームの現状報告や行事・防火対策などを議題として、運営推進会議を開催している。会議を行なうことで、地域の方にホームの役割を知って頂くことができ、参加者からの提案に対し事業所が行ったことを報告することで、その後、多くの提案を頂けるようになっている。市役所の担当者とは推進会議以外でも交流があり、窓口の方などは顔馴染みになり、質問やお願いもしやすく、親身になって対応して頂いている。また、市の方からも待機人数や空き状況を尋ねられることもある。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご利用者に関することは「その時の状態とケアの内容」等の記録をご家族にお見せしながら、ご家族に疑問等が残らないよう、個別に報告している。ホームに意見箱を設置し、意見等を施設長・家族会会長に直接挙げるシステムもあり、意見を言いやすい環境を作っており、ご家族も訪問時に直接意見を言われている。また、家族会では現状のことを正しく報告し、皆で話し合い解決している。意見が出た時には、対応策など職員も交えて話し合っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の公民館祭りや運動会に「是非来て下さい」と地域の方より声がかかり、運動会の競技にご利用者が出場した際には、「GHことひらから参加されました」と場内放送があり、席も設けて頂いている。近所の方から野菜やおやつなどの差し入れもある。ホームが施設内合同で文化祭や介護教室等の行事を開催する際も、案内を掲示・回覧していただき、地域の方も多数訪れている。保育園児が、お遊戯や歌を披露しに訪れたり、中学生の職場体験など、子どもたちと触れ合うことも多く、地域との交流は積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者である院長の「地域に貢献したい」「地域に根ざした医療・ホームを」という思いを汲んで、施設長がホーム開設前に作った理念には、「地域の中で暮らしていく」という思いが「その人らしさを持ち続けること」という文言に込められている。その理念が実践できるよう、ご利用者が帰宅したい場合でも、すぐに帰宅できるようにと、地域の方を優先的に入居していただいている。	○	地域密着型としての思いは、理念に込められているが、「地域の中で地域の方々とともに暮らしていく」という意味合いの文言を、理念の中に盛り込むかどうか、今後検討していきたいと考えている。地域の方にも、地域密着型サービスとしてのホームの理念を発信し、さらに理解していただくためにも、職員全員で話し合いをしていられることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のユニット会議や全体会議で施設長・職員と理念について確認し合い、毎朝の朝礼で理念を唱和している。日々の現場では職員同士が言動について注意し合い、理念の実践に取り組んでいる。現在、「その人らしさを見極めていくこと」の取り組みとして、ご利用者の「聞いて欲しい」という気持ちに応えるために、ご利用者を待たせなくてもいい方法を考え、月に2回「ご利用者とずっと関わっていられる職員の勤務体制の取り組み」を始めている。	○	施設長は、職員の力を信じており、職員一人一人が、一層、仕事としてのプロ意識を持ち、さらに気づきが広がるように、今後、さらに仕事での基本姿勢(気づきや援助方法等)などについて、日々、伝えていきたいと考えている。一人一人の職員の気づきやプロとしての基本姿勢が、日々の現場でさらに発揮できていくことを期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館祭りや運動会に「是非来て下さい」と地域の方からお声かけを頂いたり、運動会の競技に、ご利用者が出場した際には、「GHことひらから参加されました」と場内放送があり、席も設けて頂いている。近所の方から野菜やおやつのお差し入れもあり、ホームが施設内合内で文化祭や介護教室等の行事を開催する際も、案内を掲示・回覧していただき、地域の方も多数訪れている。保育園児が、お遊戯や歌を披露しに訪れたり、中学生の職場体験など、子どもたちと触れ合うことも多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が、評価・項目内容について職員に説明し、管理者と一部の職員とで話し合い、その結果をまとめた。自己評価を行うことで、自分達のホームが全ての面で地域に密着しているということの再認識ができ、職員からは「初心に戻って頑張ろう」という声も聞かれた。前回の外部評価を踏まえ、①音の大きさ、②利用者一人ひとりの尊重、③服薬管理を、全職員が定例会で話したり、勉強会を行うことで改善に向けて取り組んできた。	○	今回の自己評価は、職員の資格取得の試験などが重なり、管理者と一部の職員で行なった。次回の自己評価は、全職員で行ないたいと考えている。全職員で自己評価を行うことで、更なる振り返りの場にもなり、今後の取り組みのアイデアもさらに深まっていく可能性もあり、今後の取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方から、「グループホームという言葉は知っていても、内容を知らない人は少ない。どんなことをするのですか？」などの質問をいただき、その都度、わかりやすく回答している。「運動会、公民館祭りに参加されてみては？」との提案を頂き、さっそく実行に移し、その後、「利用者・職員で参加しました」と報告することで、その後も、たくさんのご提案をいただけるようになってきた。また、外部評価の結果報告も行い、地域の方にホームの役割を知っていただく機会になっていると共に、運営推進会議が、地域との交流がより深まる場になってきている。	○	現在、会議の参加の為に1~2人のご利用者が不在になることで、他のご利用者が不安になられる可能性があるために、ご利用者の参加を見合わせている。今後、ご利用者のおやつ時間に、会議のメンバーの方が同席されることは可能とのことで、ご利用者の普段の暮らしぶりなどを知っていただくためにも、あらたまった場でなくとも、ご利用者が参加できる方法を検討していきたいことを期待したい。また、ご家族や近隣地区の役員、地域住民を会議の参加メンバーに増やしていきたいとも考えられており、今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所には、施設長や事務の方々がホームの取り組みや会議の結果を持って、毎月報告に行っている。市職員が参加する研修会などでは、施設長がホームの取り組みを報告している。また、市が主催する認知症対策推進委員会や介護教室に参加しており、病院・民生委員・警察の方などの参加者との交流ができています。市の窓口には、顔馴染みの職員の方がおられ、質問やお願いもしやすく、親身になって対応して頂いており、市の方からも待機人数や空き状況を尋ねられることもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の暮らしぶりや健康状態はご家族の面会時に、施設長又はリーダーが、「その時の状態とケアの内容」等細かく記録したカルテ等を見ていただき、疑問が残らないよう個別に報告している。また、突発的な事は電話で直ぐに報告している。職員が退職する場合も面会時に理由も含めて伝え、遠方の方には電話で報告している。ホームでの預り金は基本的にに行っていないが、外食等の為に預かったお金は、お小遣帳を作成し、面会時に確認していただくとともに領収書をお渡ししている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を設置し、意見等を施設長・家族会会長に直接挙げるシステムあり、意見を言いやすい環境を作っている。ご家族も訪問時に直接意見等を言われたり、花見の場所の情報提供等もしてくださり、良い関係が築けている。また、家族会の日程調整も、より多くの家族に出席して頂けるよう配慮している。トラブルが生じた時も、現状を正しく家族会で報告し、皆で前向きに話し合う場となっており、家族同士が話し合える良い機会になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には「顔馴染みの職員でケアをする」という運営者の考えであるが、ある程度の経験を積んだ時にはスキルアップのための異動もある。職員のチームワークを良くするために、小さな課題や意見でも、何かあればその場で話し合い解決するようにし、後に引かないようにしている。昨年からは年に3回フレッシュ休暇をとるようにしている。職員個別の相談や指導等も、内容や職員ごとに見極め、適任者が対応している。職員の異動があった場合も、ご利用者ごとに説明の仕方を変え、新規職員にも、充分、ケアの仕方を指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームと他系列事業所と合同で、全体の研修計画を立てている。職員には、事前に課題を渡しそれぞれ考えてきてもらい、一人ずつ発表してもらう機会を作ったり、休みの職員も研修に参加している。外部研修に参加した職員は定例会で伝達研修している。介護福祉士などの資格を取得したいという希望を確認したり、「ここを重点的に今後取り組んでほしい」という上司から見た目標を伝えたり、職員の気になる部分についても個別にその都度指導をしているが、職員毎の育成計画までは立てていない。	○	今年の抱負を職員一人一人に提出してもらっており、本人の目標に合わせて研修を選んでもらうようにしている。外部評価の後、定例会で個人個人の育成計画を明文化できる書式を作成し、職員に説明を行い、一人一人に目標を決めてもらうという方向で育成計画を検討していきたいと考えている。職員の経験年数やレベルにあった職員毎の育成計画ができ、目標の確認・実践・評価が紙面に残る体制作りを期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム連絡協議会に参加し、3ヶ月に1回開催される全体会に施設長が参加している。その他、説明会や新人研修に職員も参加している。社協や自治体の研修にも積極的に参加し、事例検討等を行い、交流の場はある。相互訪問や、日常的な情報交換なども、機会があれば、今後、行ないたいと考えている。	○	運営者同士が同じ考えを持つホームと職員の行き来をし、自分達のケアへの戸惑いを解決する糸口を見つけ出すなど、見学だけではなく、さらなるスキルアップが図れる相互訪問を行いたいと考えている。さらに、職員の相互訪問に加え、ご利用者の訪問も行なってみたいと考えており、交流先の確保とともに、今後の交流がさらに深まっていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族からの入居の相談後、ご家族やご利用者がホームを見学し、ご家族からご本人に入居の説明をして頂いている。ご本人も納得して入居されるが、その後、忘れられる方もおられ、話を充分に伺った後で「今日は遅いので泊まっていきませんか」「ご飯でも食べていきませんか」と声かけし、安心頂ける対応をしている。また、先に施設内のデイサービスを利用し、施設や職員に馴染んでから入居される方法をご提案したり、「退院後自宅で過ごしたい」というご利用者には、1ヶ月ほど自宅で過ごされた後、入居頂くなど、ご本人のお気持ちを一番に考えた対応を続けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から、仕事等の体験談や、昔の言葉の意味など、実感のこもった言葉で語って頂き、常に職員はご利用者から教えていただいている。女性のご利用者からは、子育ての経験をもとに色々なアドバイスや励ましの言葉をいただいたり、職員が帰る時間を気にかけて下さり、職員は、ご利用者とは、家族として生活していると感じることも多い。ご利用者のみならず、ご家族からの感謝の言葉、相手を気遣う気持ちを聞いたときには、職員は「頑張ろう」という気持ちになり、感謝の気持ちを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が“どのように暮らしていくことを望み、一つ一つの生活行為について、どこまで自分で行い、どうしてほしいと思っているのか”を職員は把握している。入居間もない方から「ここに居てもいいの？」と言われることもある。思いを表現されない方も含めて、共に行動するように心がけ、その時々で発する言葉や表情を大切にキャッチし、ご本人の思いを汲み取れるように努めている。トイレで排泄希望の方に対しても、職員は諦めず、日中は声かけ誘導し、トイレで排泄していただく取り組みを続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画書を作成する上で、予めご利用者・ご家族に意向等を確認し、かかりつけ医の助言や職員で出合った意見をもとに、各担当職員が原案を作成し、介護支援専門員が点検、更に施設長が確認している。計画は、ご利用者に分かりやすい言葉で書かれ、その人らしい計画となっているが、「ご利用者の一時帰宅やドライブに連れて行っていただく等」、ご家族へ依頼していることを計画に記載していかれることで、よりご家族も参画できる計画になっていくことが期待できる。	○	今後は、家族の役割を計画の中に組み込むことで、ご家族の役割も表現でき、ご家族も一緒に日々の暮らしの中で役割を担っていくことができると思われる。また、今後は、“地域で暮らす”という視点を意識して介護計画に盛り込むようにしていくと、地域密着型サービスの実践がより具体化していくと思われ、今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいて、毎日、職員は、カルテにて心身状態やケア内容のチェックを行い、毎月のカンファレンス時に計画を検討している。介護計画は3ヶ月に1回見直しをしているが、ご利用者やご家族の要望・状態に変化が生じたり、日頃の会話等で新たな気づきや意見が出された場合も、臨機応変に計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平日は毎日院長が往診し、土日の必要時は母体医院の看護師が訪問するなど、骨折や手術以外はホームで対応している。院長の指示のもと、施設内の看護師がホーム内で点滴を行い、リハビリのため理学療法士が週2回訪問し、歯科衛生士もアドバイスをするなど、早期発見・早期治療に努め、医療連携体制は十分に整っている。また、ご希望に応じて、ご利用者ご親族の結婚式にお連れしたり、外泊時は薬や介護方法の説明文書を準備するなど柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々、院長が主治医だったご利用者が多い。ご家族から病状の相談や希望がある場合や、受診時に気になる場合は、院長が適切な病院を紹介し、専門医に診て頂いている。ご家族が通院介助を希望される場合以外は、施設長が通院介助し、検査結果等は変化の有無に関わらず速やかに報告し、定期受診は、変化があった場合は速やかに、変化がない場合は面接時に報告している。ご家族が通院介助をされた場合も、受診結果をホームに報告して頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで10名の方の看取りをホームで行った。院長・職員・ご家族とともに話し合いを続け、最期までご本人らしい生活をして頂き、ご本人に寄り添い、おだやかな看取りを支える取り組みを続けてきている。入居時に「看取りに関する指針」を説明し、重度化した時や終末期の希望をご利用者・ご家族に確認している。入居時に把握できなかったご利用者にも、いろいろな話の中で「最期に会いたい人はいますか?」「最期はどこで迎えたいですか?」「先生の希望はないですか?」等をさりげなく尋ね、確認が取れた場合はご家族にも報告し、話し合う体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人情報保護法」や「保護規程」を定例会や日々のミーティングで施設長が話し、個人情報を書かれた書類の取扱いや、メモ類を破棄する場合はシュレッダーにかける等、情報漏洩防止を徹底している。利用者に対する声かけも「何々しましょうか」と語尾に「か」を付け、ご利用者の選択に任せ指導的な言動にならないようにしている。また、本人が十分に整容できない方には、トイレ内又は居室までお連れし、身なりを整えるなど、ご利用者の自尊心に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの参加を楽しんでおられる方も多いが、毎日嫌がられる方には、気長に声かけしている。嫌がる理由・背景を一人ひとり考慮して、ペースを尊重しつつ、声かけ対応している。希望を表さない方は行動パターンを観察して思いを汲み取り、孤立することのないよう声かけし、皆の輪の中に入れていただいている。ご利用者が目的を忘れてしまわれたような様子が見受けられた場合も、職員がそっと促すなど、ご利用者が主役で、その人らしさを持ち続けるお手伝いすることを心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を聞いたり、買出しや調理の下ごしらえ、下膳、テーブル拭き、食器洗い、食器の片付け等に参加していただき、ご利用者が持っておられる力を発揮して頂いている。食事を楽しんで頂くために、菜の花等の旬の食材や、菜園で採れた玉葱や小ねぎを使用し、咀嚼・嚥下力を把握するために職員も同じ食卓につき、また、必要な介助を行いながら、同じものを食べ、楽しい雰囲気を作るようにしている。また、時折外食をしたり、お菓子バイキングを採り入れたりして気分転換を図っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により時間外(10時から12時)の入浴も可能で、入浴回数や入浴時間も、体に負担のない範囲内でご本人の希望に沿っている。入浴を拒否される方には「今日は先生が来られるから」等と声かけし、少ない方でも週に3回は入浴して頂いている。ご希望を伺い、必要時、同性介助を行い、危険がない場合は、職員も外から様子を伺う等、羞恥心への配慮をしている。また、同施設内の大きな浴室で温泉気分を味わって頂いたり、車イスの方にはリフト浴を利用し安心して入浴して頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者一人一人のその日の体調に合わせ、これまでの生活歴や趣味を活かして洗濯物の整理や食事の準備・後片付け、掃除、箱作り、割り箸の袋入れ、新聞紙折り、テーブル拭き、計算問題など、お力を発揮していただいている。ご利用者によっては、ご本人ができることも「甘えたい」という心理から、職員にお願いすることがあり、その時は、職員がお手伝いすることもあるが、「一緒にしませんか」と、ご利用者が得意なことは上手に声かけし、ご本人が主役になれる場を積極的に作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望が強い時など、ご本人が納得するような声かけで散歩するなど、気分転換に外出していただいている。また、行事以外でも土日にはドライブに行くようにしている。気分転換と筋力アップの為に、日常的に外出していただき、月1回の通院時には、帰り道にドライブしたり、お茶をして帰るようにしているが、車イス等を使用されている方は、敷地内の散歩が多いが、ホーム前の道路が坂道で、歩道も十分ではなく、近くに公園などが無いということもあり、外出の頻度が少なくなっている。	○	今後も、馴染みの場所を含めて、安全を確保しながら、外出の機会を増やしていく方法を検討したいと考えられている。とても眺めの良いところにホームは建てられており、夜景の素晴らしさを含めて、十分に気分転換できる環境ではあるが、今後も、違った風景の場所に外出でき、馴染みの場所に出かけ、馴染みの地域の方々と出会う機会が増えていくことで、その場でしかできない会話を引き出していけることも期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やエレベーター等は、利用者が自由に出入りできるようになっている。職員が作業する場所や立つ向きを工夫し、職員同士で声をかけあい、必要時には、1対1で対応できるように職員体制を整え、鍵をかけることなくケアしている。時々外へ出てしまうご利用者は、落ち着かなくなれる傾向を予め把握し、現状を把握した上で職員が行動し、1階職員にも予測される行動を伝達し、協力依頼をしている。ご利用者が外へ出られた場合には職員が同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生・火災も想定しての避難訓練等は年二回行っている。避難方法は消防署と話し合い訓練している。運営推進会議の場でも、町内会長や民生委員へ災害時の避難場所の依頼・相談を行っており、現在、地域の消防団に訓練に参加していただけないか依頼中である。災害発生に備えて、食料や飲料水などの準備はしていないが、「準備をすすめた」と運営推進会議で報告している。	○	3月に、地域の方々と消火器使用の訓練を予定している。同法人の医院、同系列他事業所と連携し、災害時にも対応できるように、何をどれだけ準備すればよいのか、運営者と相談し検討したいと考えている。また、訓練の際には、消防団や地域の方にも参加していただけるように依頼していくとのことで、今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好の確認は行なっているが、嫌いと言われていた食べ物も自然に食べられるようになってきている。ご利用者に合わせ、一口サイズにしたりと、とろみをつけるなどし、飲み物の種類も選んでいただき個別に支援している。飲水量は1,000cc～1,500ccを目安に摂っていただき、食事も把握・記録している。定期的に栄養バランスを同施設の栄養士にチェックしてもらい、カロリー計算もしてもらっている。また、定期的な血液検査の結果による医師からの助言も得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エントランスには花々が飾られ、玄関を開けると行事を楽しむご利用者の写真があり、廊下にはご家族が持ってきてくださった季節の花や、ご利用者が共同で作った季節の壁飾り、ご利用者の作品、ご家族が撮影した風景などの写真が飾られている。ご利用者が集まるリビングからは佐世保港が一望でき、BGMに軽音楽が流れ、喫茶店にでも来ているかのようにご利用者はとてもリラックスされている様子である。家族会からも、「今のままで十分です」というお声をいただいている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	高台にあるホームの居室からは、地域の住宅街が見え、ご利用者の中には、ご本人の自宅が部屋から見えることで安心して過ごしている方もおられる。居室は、ダンスやテレビ、ぬいぐるみ、鏡台、テーブル、花、思い出の品々、愛着のあるコートなどをお持ちいただき、窓から外が見渡せるようイスの配置を工夫するなど、レイアウトも含め、ご本人・ご家族にお任せしている。		